

2020年10月9日
米国研究製薬工業協会

米国研究製薬工業協会(PhRMA)会長 ジョバンニ・カフォリオ 新型コロナウイルス感染症克服に向けて 日本政府との緊密な連携を提案

米国研究製薬工業協会(PhRMA)会長のジョバンニ・カフォリオ(ブリストル・マイヤーズ・スクイブ取締役会会長兼CEO)は、PhRMAが例年開催する「PhRMA Days」の一環として、日本政府関係者及び主要オピニオンリーダーの方々とのオンラインミーティングを行い、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)克服に向けて、バイオ医薬品業界が日本政府と緊密に連携して克服に取り組んでいくことを強調しました。

また、新型コロナウイルス感染症の治療法とワクチンに関しては、現在1,600を超える臨床試験が行われており、およそ500の新たな治療法と43のワクチンが試験段階にあることを、これらミーティングを通じて日本の政策立案者に伝えました。

カフォリオは次のように述べています。

「バイオ医薬品業界は、スピード重視のために安全性と有効性を犠牲にすることなく、新型コロナウイルス感染症の治療や効果が期待されるワクチン開発に継続して注力しています。私たちは、業界として新たな治療法を確立するために、新しい技術、研究、製造、革新的な医薬品の提供において数十年にわたる投資を行ってきたからこそ、このような事態に迅速に対応できているのです。」

加えてカフォリオは、この新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、治療薬の開発を促進させるような医療制度改革が、世界中で加速される必要があることを指摘しました。そのような制度が整備されることにより、企業がパンデミックをはじめとする様々な疾病にも対応できるようになり、医療現場での資源不足が軽減され、患者さんの治療成果の向上につながり、ひいては人々が健康に暮らせる社会が確保されることを強調しました。

また、日本政府に対し、医療制度全般において、より効率的かつ効果的に資源が配分されるような改革への将来的な取り組みに注力することを提言するとともに、この目標を実現するためにPhRMAは今後も日本政府への支援を続ける意向であることを改めて表明しました。

最後にカフォリオは次のように述べています。

「今回の事態をきっかけに、バイオ医薬品業界全体、ならびに日本をはじめとする各国の主要パートナーとの協力体制が確立されたことは、非常に素晴らしい成果であり、今後の研究開発の取り組みに長期的に良い影響を及ぼすでしょう。このような危機的な状況にあっても、PhRMAと加盟企業は今後も、新型コロナウイルス感染症の治療薬と

ワクチンの提供のために私たちができることに全力で取り組み、さらにそれ以外の、未だ治療法へのニーズが高い疾患に対する革新的治療薬を患者さんへ提供できるよう努力してまいります。」

■米国研究製薬工業協会 (PhRMA)

PhRMA は、米国で事業を行なっている主要な研究開発志向型製薬企業とバイオテクノロジー企業を代表する団体です。加盟企業は新薬を発見・開発し、患者さんがより長く、より健全で活動的に暮らせるよう、努力しています。加盟企業の新薬研究開発に対する投資額は、2000年からの累計では1兆ドル以上に達し、2019年単独でも推定830億ドルになりました。

- PhRMA 日本オフィスホームページ <http://www.phrma-jp.org>
- PhRMA ホームページ <http://www.phrma.org>
- PhRMA 日本オフィス Facebook <https://www.facebook.com/phrmajapanoffice>

【本件に関するお問い合わせ】
米国研究製薬工業協会 (PhRMA) 広報事務局
(株式会社ジャパン・カウンセラーズ内)
TEL: 03-3291-0118 FAX: 03-3291-0223
E-mail: phrma_pr@jc-inc.co.jp

〒101-0065 東京都千代田区西神田 1-3-6 ウエタケビル 4F

※新型コロナウイルス感染症対策によりスタッフが不在の場合がございます。
お問合せはメールにて頂けると幸いです。